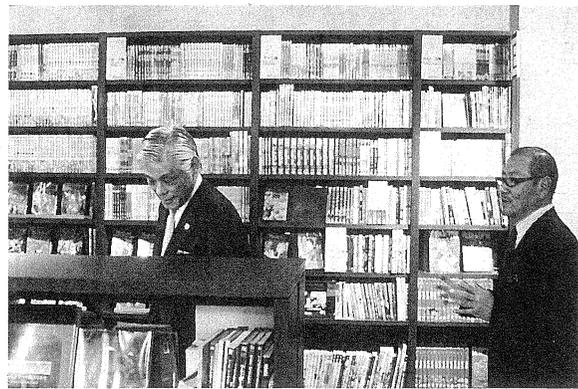


# 京都国際マンガミュージアム開館4年を迎えて 開設の経緯と文化庁とのつながり

京都市教育委員会生涯学習部博物館事業振興係長 白波瀬克則

去る平成22年10月31日(日)、京都出張の合間をぬって、文化庁の近藤誠一長官に京都国際マンガミュージアムを視察いただきました。門川大作京都市長、京都精華大学の赤坂博理事長とマンガミュージアムの運営状況や活動に関する意見交換の後、熱心に施設内を見学いただき、近藤長官からは「これだけの資料をそろえるのは大変だったろう」とのお言葉をいただきました。

京都国際マンガミュージアムは京都市と京都精華大学との共同事業として、元京都市立龍池小学校の昭和4年築の建物を再利用して平成18年11月にオープンした我が国初のマンガ文化の総合拠点です。研究、博物館、図書館、生涯学習機能を備え、さらにマンガを活用した新産業創出、人材育成を目指して活動しています。館内には、展示室のほか、



熱心に館内を御視察される近藤誠一長官(左)

ワークショップコーナー、ホール、ショップ、小学校史を伝える展示

室、研究室、研究図書閲覧室、地元集会所などがあります。地下収蔵庫

では、30万点のマンガ関連資料を収蔵しています。また、館内に配架された約5万冊のマンガ本(うち、約5000冊は海外のマンガ)は自由に閲覧できます。平成21年度には、マスコミ等から850件超の取材があり、年間入館者が30万人を突破、開館以来のべ入館者についても、平成22年8月に100万人に到達しました。マンガミュージアム開設の経緯やこれまでの取組などをまとめてみたいと思います。

《京都にマンガミュージアムができたわけ。その発端》  
「なぜ京都にマンガ？」と思われる人も多いかもしれませんが、京都府にある高山寺所蔵の国宝「鳥獣人物戯画」が日本マンガの起源の一つとも言われていますし、平安時代中頃から鎌倉時代に盛んに作られた絵巻物も、マンガに通じるものがあり、京都にはその多くが今日まで伝わっています。また、ミュージアムの共同事業者である京都精華大学は、昭和48年にデザイン学科に一枚絵の風刺マンガを扱うコースを作った。以来、マンガを研究分野に位置付け、現在、日本で唯一「マンガ学部」を有し、マンガ研究の最先端を走っています。それらを考えると、マンガの過去と将来を融合、発展させることのできる都市として京都は

ふさわしいといえるのではないかと思います。

京都精華大学では、平成13年に「表現研究機構」という研究組織を立ち上げ、その一部門として「マンガ文化研究所」を設立、また「日本マンガ学会」設立を支援し、マンガの学術的研究の可能性を探求していただきました。そして、信頼ある学問分野とするためには、散逸するマンガ資料を少しでも早く基礎資料として収集・保存することが必要であり、その場所として京都市都心部の学校跡地を利用できないかということから、大学側の担当者が市側に話をもちかけたのが平成15年4月、マンガミュージアム誕生の第一歩でした。

## 《マンガミュージアムの開設まで》

市の財産を一大学に利用させるのは無理だと初めは断ったものの、京都市としても都市戦略の一環として、マンガを使って地域振興や文化発信ができないかということになり、市と大学で協議を重ね、同年12月にマンガミュージアムの実現に向け、両者が協力することを確認しました。また翌16年2月に、当時の榎本頼兼市長が市長選挙のマニフェストで、大学と協力した国際マンガミュージアムの開設を発表し、3期

目の当選を果たしました。折しも、京都市にかかりの深かった河合肇雄先生が文化庁長官に就任され、関西元文化圏構想を提唱された矢先で「文化庁としても協力できることはさせてもらう」と力強いお言葉をいただきました。

次の段階として、場所の選定が進められました。市内中心部には多くの学校跡地がありましたが、大学側からは市営地下鉄の烏丸線と東西線が直交する烏丸御池にある元・龍池小学校を候補地として強く要望されました。そもそも京都市中心部の小学校の歴史は、明治天皇の東京選都に伴い、急速にさびれていく京都の町で危機感を感じた町衆が、「番組」という自治組織ごとに自ら資金と土地を提供して自主運営する小学校を64校作った明治2年(明治政府が学制を定める3年前)にさかのぼります。龍池小学校もその一つであり、

今も地元では、学校に対する誇りと思いは並々ならぬものがあります。それゆえにたとえ市の財産であるといえども、学校跡地活用は地元の意向をふまえずに進めることはありえず、大学の意向を受けて、市が龍池小学校の地元ミュージアムの構想をもって行ったところ、「なぜこの歴史と伝統のある学校をマンガの博

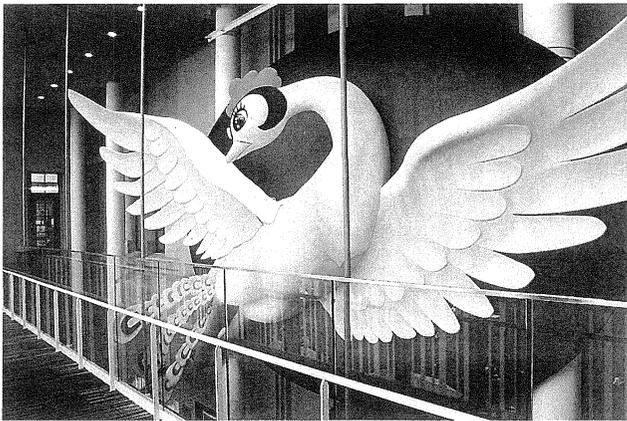
物館などにするのか」との声も多々、調整は大変難航しました。地元との協議は連日夜中まで何十回もおよびましたが、粘り強く話し合いをもち、地元の声を受け止め、その思いに沿う形で、協議を重ねました。その結果、大体の方には納得していただいたうえで地元・龍池学区自治連合会の会長や役員の方々の協力もあり、次の三つを条件に地元構想を受け入れていただきました。

- 一 市、大学、地元の三者協議会を組織し、協議を進め、開館以降も継続すること
- 二 歴史ある学校の校舎をそのまま生かした有益なものにすること
- 三 これまでどおり自治活動を支援なく行うことができること

このことを河合長官(当時)に報告したところ、「私でよければ、一度お話しに行きましょうか」と仰っていただき、地元住民や一般市民を対象に講演会を開催することになりました。講演会では



故河合肇雄文化庁長官による開館前の市民向け講演会



京佛師が佛像製作技法を用いて製作した「火の鳥」オブジェ ©手塚プロダクション



フランス・ルーヴル美術館との共同企画「マンガ・ミーツ・ルーヴル」展

〈開館以降〉

最後はドタバタ、冷や汗をかきながらの準備となりましたが平成18年11月24日、開館記念式典を迎えました。式典には文化庁から高塩至文化部長（当時）にお越しいただき、祝辞を頂戴しました。開館後は、文化庁関西元気文化圏推進・連携支援室の森重和子室長に、マンガミュージアム運営委員会に参画いただき、貴

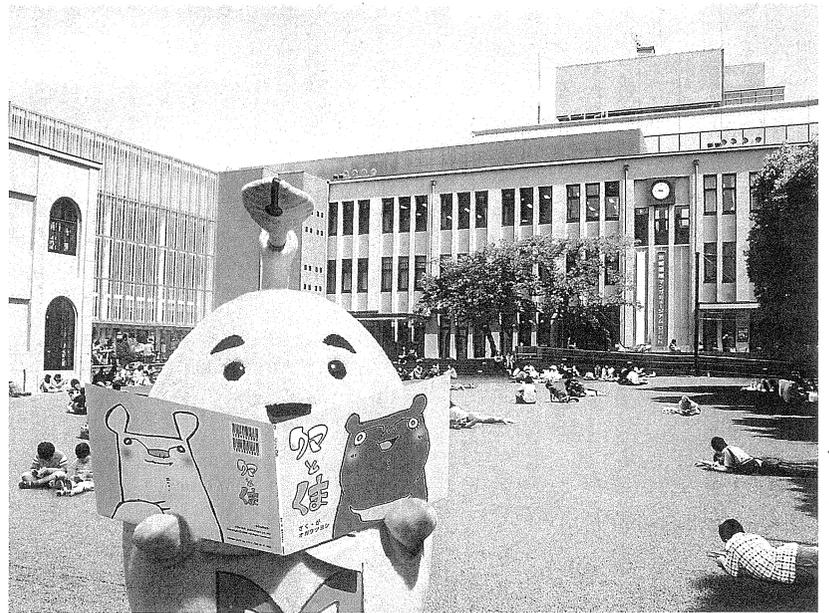
重なご意見をいただいています。

また、平成20年1月には関西元気文化圏賞「ニューパワー賞」を頂戴し、6月には昭和初期のミュージアムの建物が有形登録文化財に登録されました。最近では、昨年9月に文化庁メディア芸術祭京都展を京都芸術センターと共同で開催しました。さらに来年度は国民文化祭の京都開催にあたり、「マンガアート部門」

の発表を行う予定となっています。

このように、マンガミュージアムは開館前から、文化庁の提唱された関西元気文化圏の追い風を受けて生まれ、成長し、さまざまな事業を実施しております。古い伝統や文化が今も息づく京都という土地は、新しいものを既存のものとの調和・受容し、発展してきましたが、マンガというジャンルにおいても、茶道、華

道などとのコラボレーション企画や、京佛師による木造「火の鳥」オブジェの製作など、京都ならではの新たな展開が生まれています。また、来館者の1割強は海外からの入館者であることをはじめ、海外からの注目も高く、フランス・ルーヴル美術館との共同企画をはじめ、海外の研究機関との共同事業を実施するなど、日本のマンガ文化の総合拠点としても海外において認められつつあります。今後、そういう流れをどのように進め発展させていくかが、重要な課題だと考えています。周りからはここまで順調に進んできたようによく言っていたのですが、担当者としてはマンガのパワーに翻弄され、日々冷や汗・脂汗をかきながら、なんとかこまごまやってきた、ここから勝負どころだというのが正直な感想です。でも、何とか形になりつつあるのは故河合雄長官をはじめ、文化庁の皆さんやその他の地域の関係機関等によるバックアップが非常に大きかったと痛感しています。心から感謝を申し上げますとともに、今後いっそうの発展のため、ますます頑張らないと心を引き締める次第です。



マンガミュージアム全景とマスコットキャラクター「マミー」

講演をしていただきました。翌年も開催し、河合長官に出講いただきました。文化庁長官がマンガミュージアムのためにわざわざ来られたとい

うことで、地元の皆さんのマンガに対する偏見・否定的な考え方はかなり払しょくされ、地元と市・大学が本格的な協議にスツと入れたのは事

実で、今も河合長官には関係者一同大変感謝しています。その後、三者での協議は継続され、開館に至るまでにその回数は300回を超えました。市が土地と建物を大学に無償で提供（使用貸借）し、大学側が事務局を組織して、館を運営。市は、係長級職員をミュージアムに派遣するとともに、市・大学ほかで組織する運営委員会で事業にかかわり、市の媒体・体制で広報活動を行う等を決めました。また、ソフト面での構想や設計には地元の意見がかなり反映され、整備費は最終的に構想時のほぼ倍の12億円に膨らみました。財政的な裏付けとして、ミュージアムが大学の研究施設を核とすることから、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）に事業申請を行うこととし、市からは地元利便施設の面積按分で約1億円を負担、残りは大学が負担することとなりました。これに併行して、市役所内部では本事業を市全体の事業ととらえ、教育委員会が窓口になり、総合企画局、文化市民局、産業観光局の部課長級を集め、どのようにかわっていくのか議論を重ねました。また、運動場は当初地元活動や広域避難所としての

み活用する予定でしたが、ミュージアム利用者にもぜひ憩いの場として利用して欲しいと地元から申し出があり、さらにその人工芝化の整備費にと1000万円の寄付を頂戴しました。今はこの人工芝グラウンドで来館者が寝そべってマンガを読んでもおられますが、地元の運動会や、夏祭りもここで開催しています。なお、運動会には「マンガミュージアム町」として、館の職員も参加をさせていたいただいています。

平成18年度に入ってから、改修工事と並行し、正式名称、館長人事ほか運営体制についての協議を続けました。河合長官からは「開館したら、グラウンドで寝転んでマンガの読書会をしたいね」と楽しみにしていたのでした。病気で倒れられ、ついにはご覧いただく機会を失い、読書会は実現しませんでした。河合長官が開館後の姿を見ていただけなかったのが、今もいっばんの心残りです。開館後、館内の展示室の一角に、河合長官の開館前の講演会の写真や、ミュージアムについて書かれた新聞記事などを展示したコーナーを設けております。

# ◆特集◆ 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)

## ◆連載◆

【鑑文化芸術へのいざない】  
よみがえる日本映画―映画保存のための特別事業費による 東京国立近代美術館フィルムセンター

アーティスト・ファイル2011―現在の作家たち―(国立新美術館)

【文化人の気魄】

並木恒延・建築作家

【いきいきユニゾニアム 美術館・博物館事業レポート】

宮崎県立西都原考古博物館

【こども文化体験】

こどものための優れた舞台芸術体験事業

【祭り歳時記 (伝承を支える人々)】

磐梯神社の舟引と祭り (福島県)

【文化交流使の活動報告】

華道家・佐々木康人

【著作権トピックス】

電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議での検討状況

【言葉のQ&A】

【相互尊重に基づいた自己表現】としての敬語

【国立大学施設探訪―近代の記憶そして未来へ―】

千葉大学医学部本館

◆文化庁ニュース◆  
平成22年度文化庁長官表彰被表彰者の決定  
登録有形文化財(建造物)の登録  
海外日本古美術展「日本とタイ―ふたつの国の巧みと美―」  
創造都市ネットワーク会議開催

など

など

# 文化庁月報 2月号 (通巻509)

平成23年2月25日印刷・発行

編集―文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行―株式会社 きようせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11

電話 編集 03-6892-6527

販売 03-6892-6666

フリーコール 0120-953-431

URL: http://gyosei.jp

印刷所―ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価 540円 [本体514円]

年間購読料 6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株)ぎょうせい出版事業部広告担当

電話 03-6892-6589 (ダイヤルイン)

2011 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

## 編集後記

漢字は一体何字あるのでしょうか。  
日本の「大漢和辞典」(修訂二版)の親字は5万305字。中国の「中華字海」の親字(異体字も親字とされている)は8万6000字。国際的な文字コード表であるUnicodeで、漢字使用国それぞれの漢字に付されたコード番号は約7万。数え方の問題もあり、正確に漢字は何字あるかは言えません。世界的に見ても、最も文字数の多い文字体系でありましょう。  
漢字が何万字とあると言っても、一般の社会生活で使っている漢字数は数千にとど

まります。今回実施した漢字の使用頻度調査(調査対象総漢字数約5千万字)では、前の「常用漢字表」の1945字で、書籍等において使われている漢字の96%強を占めていました。こうした中、情報機器の普及という時代の変化を踏まえ、一般の社会生活における漢字の使用実態により即すように作成された「漢字使用の目安」が、新しい「常用漢字表」(2010年)です。  
この「常用漢字表」の趣旨を理解していただくための説明会を1月〜3月に開催します(詳細は文化庁HP参照)。(国語課)

## 美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等へのチケット

プレゼントは、

A 東京国立近代美術館

「生誕100年 岡本太郎展」

2組 (ペア)

B 国立国際美術館「風穴」

2組 (ペア)

C 奈良国立博物館「お水取り」

2組 (ペア)

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、2月25日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。

\*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

●ホームページアドレス●  
<http://www.bunka.go.jp>